



## 卒業を祝して

歯学部長 前田 健康

歯学科第49期生の皆さん、口腔生命福祉学科第12期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。歯学部教職員を代表して、本日めでたくご卒業される皆さんに心からお祝い申し上げます。また、今日の日を一日千秋の思いで待ち焦がれていた保護者、ご家族の皆様方のご尽力にも敬意を表するとともに、お喜び申し上げます。

卒業生の皆さんは、新潟大学歯学部の教育課程をすべて修了し、本日、学士の称号を与えられ、この春から、歯科臨床研修医、歯科衛生士、福祉職、行政職、大学院への進学等、さまざまな道に進まれます。各人の進む道は異なるものの、歯科医学・医療、口腔保健・福祉に携わり、国民の健康の維持・増進に寄与するという皆さんの目標は同一であると思います。

我が国は超高齢社会を迎え、総務省の統計調査によれば、2018年9月15日時点の総人口に占める高齢者人口（65歳以上）の割合は28.1%と過去最高になり、2013年から6年連続で総人口の1/4を超えています。また平成30年版高齢化白書によると、75歳以上人口（後期高齢者）の割合は13.8%にも達しています。超高齢者社会を迎えた我が国では、医療制度の在り方が問われ、社会保障制度の改革が進んでいます。またグローバル化が急速に進んでいます。平成28年度に文部科学省より公表された歯学教育モデル・コア・カリキュラムは「国際的な公衆衛生や歯科も含めた医療制度の変遷を鑑み、国民から求められる倫理観・医療安全、チーム医療、地域包括ケアシステム、健康長寿社会などのニーズに対応できる実践的臨床能力を有する歯科医師を養成することを意識

し、大幅な改訂が行われました。この中で、歯科医師として求められる基本的な資質・能力として、プロフェッショナリズム、医学知識と問題対応能力、診療技能と患者ケア、コミュニケーション能力、チーム医療の実践、医療の質と安全の管理、社会における医療の実践、科学的探究、生涯にわたって共に学ぶ姿勢の9項目が掲げられ、これらは医師として求められる基本的な資質・能力と同一なものと定められました。また、国は歯学に対し、健康長寿社会実現への貢献、医療イノベーションの創出、国際的な医療課題の解決を期待しています。このような中で、本日、社会に旅立つ卒業生の皆さんが何をすべきなのでしょう？社会は口腔医療・保健・福祉のプロフェッショナルとなる皆さんに対して、常に幅広い教養、豊かな感性、きびしい倫理感を求め続けます。また、社会は専門的知識やスキルを維持・向上させる責任も求めるため、皆さんにはさらに一層の常日頃の精進が不可欠となります。皆さんが社会から認められるために、今日この日に、改めてこれからの長い人生に向けて新たな目標を設定しましょう。

「良馬鞭影を見て走る」という言葉があります。これは摩訶止観（まかしかん）という仏教の論書の中にある「快馬（けめ）の鞭影を見て即ち正路（しょうろ）に至る」という言葉に由来しているようです。この意味は、良馬は鞭の影を見ただけで進む、すなわち、本当に勉強や仕事ができる人は「勉強しろ」「仕事しろ」と言われなくても、自分から考え行動するということです。大学を出てから社会人としての学びの時間は40年以上に及

びます。平均寿命が伸びる中、学びの時間はますます増えていきます。皆さんが大学で学んだ4ないし6年間は人生の学びの時間の10～15%にしかならないのです。現代は厳しい競争社会です。社会は皆さんのさらなる努力による社会への貢献を求めています。これからのさらなる精進が皆さんの人生・将来に関わってきます。

本日、新たな夢を胸にスタートラインに立つ皆さんを、我々教職員一同はこれからも熱意を持って、応援していきたいと思えます。卒業する皆さんには、折を見て母校を訪ね、また生涯の学習の

場として、これからも新潟大学歯学部を積極的に活用していただくように願っています。皆さんが今日巣立っていく新潟大学歯学部は競争が激化している歯科界の中で、高い評価を受けています。すばらしい教育資源を有しています。我々教職員は皆さんに対し、これからの社会で勝ち抜くために必要な考え方、知識、技能を授けてきたと自負しています。新潟大学歯学部を卒業したという誇りを持ち、活躍して下さい。皆さんの今後の活躍を大いに期待しています。





## 歯学部卒業おめでとう

医歯学総合病院 副院長 小林 正 治 (歯科担当)

歯学科第49期生ならびに口腔生命福祉学科第12期生の皆さん、卒業誠におめでとうございます。皆さんは、新潟大学歯学部のすべての課程を修了され、晴れて学士の学位を授与されました。長い間、皆さんを温かく支えてくださったご家族の皆様にも、心からお祝いを申し上げたいと思います。

大学に入学してから卒業まで、短かったような長かったような、両方の思いを皆さんは持っているのではないかと思います。いずれにしても、この大学生活の間に皆さんは人間として大きく成長したはずで、それは、物事を考える視野の広がりや、知識の豊かさ、さらには友人や先輩、指導を受けた教員など多くの人との繋がりを通じて得られたものだと思います。皆さんは今、人生の新たなステージに進むためのスタートの場に立っています。これから歩みを進めていくうえで、自分自身が将来どうありたいかをイメージし、そのためには何をしなければならぬかをよく考えてください。皆さんがこれまでに得た知識や技術は、あくまでも医療人としての基礎であります。皆さんがさらに大きく育つためには、自分自身で基礎の上に何を積み重ねていくかが勝負になります。

近年、AI（人工知能）やIoT（Internet of Things）、バーチャル・リアリティなどのデジタル技術やロボット技術が飛躍的に進歩・普及し、社会が急速かつ大きな規模で変わろうとしていま

す。歯科医療の領域も同様で、これらの技術はこれからの歯科における診断や治療そのものを大きく変えていくものと思われます。実際、歯科医療におけるデジタル化やAI、IoTの導入はかなりのスピードで進んでいます。口腔内スキャンによる光学印象では、高速で単純かつ高精度に印象採得が行われ、診療時間の短縮や患者の負担軽減ならびに精度の高い補綴物の提供が可能となっています。また、IoTスマートハブラシなるものが開発されており、歯ブラシに搭載されたセンサーがスマートフォンと連動して歯みがきの回数や時間を記録・分析し、蓄積された情報と連動したよりパーソナライズされた予防歯科指導を行うことができるというものです。さらには、スマートフォンで撮影した口腔内の画像をもとにAIによる画像解析技術を活用して口腔の状態をチェックする技術も報告されています。今後も、高度医療の実現や地域医療の連携強化に向け、未来型医療の新たなイノベーションが創出されてくるものと思われます。このような時代の流れに取り残されないためにも、皆さんには広い視野を持って、知的好奇心を失うことなく、一步一步努力を重ねていただきたいと思います。

新潟大学歯学部ならびに医歯学総合病院歯科診療部門は、これから様々な分野で活躍する皆さんを全面的に支援します。また、卒業される皆さんも母校を末永く支援して下さいますよう心より願っています。

## 卒業生の言葉

### 歯学科6年 郡 司 敏 宏

新潟大学歯学部歯学科に入学して6年が経ちました。入学した当初は「6年なんて長すぎる、小学校と同じ年数じゃないか」と思っていました。振り返ってみると、思ったほど長くは感じませんでした。むしろ短かったのではないかと感じます。年齢が増すと一年間が短く感じやすくなる、というのをどこかで聞いたことがあります。確かにその通りだったなあ、と身をもって実感します。しかし、その短かった6年間の中には悩み、喜び、驚きなど様々思うことができました。

僕は「人の役に立つ仕事をしたいから医療系の大学に行きたい」という単純な理由でここに入学しました。実家は歯医者ではなく、歯科に対して強い思い入れも特にないまま入学してしまったので、戸惑うことしかありませんでした。

2、3年生では人体や材料の基礎的な内容について学び、4、5年生では少しずつ臨床的な内容を学んでいきました。授業では小児歯科、義歯科、歯周病科など科目ごとに勉強をしていくので、一つ一つの知識が点として蓄積されていくだけで、実際どのように臨床の場で使うのか実感できないまま過ごしていました。教科書などで文字でしか見たことのない道具を使い、時に用途の分からない器具を製作しました。そんな数年間を過ごしてきたため、僕は一体何を勉強しているのか、これを一生続けるのだろうか、という不安を

抱くことが何度もありました。

5年生の夏にCBTとOSCEが終わり、臨床実習が始まりました。今まで模型でしかやったことのないことを、実際の患者さんに対して行うことになりました。それは同時に、もう「分からない」は許されなくなった、ということでもありました。これから患者さんに対して何をする必要があるか考え、その考えをライターの先生や患者さんに伝えられなくてはいけなくなりました。いままであやふやにしてきた知識をもう一度勉強しなおす必要がありました。これらの自学自習や臨床実習を通して、授業や基礎実習でやっていたことが実際にどう行われているか知ることができました。そんな時、点々としていた知識がつながり、推理小説の伏線が回収されたときのような驚きと喜びが駆け巡りました。

また、実習中に患者さんに「ありがとう」と言っていたことがありました。それは補綴物ができた時、調子の悪かった義歯が治った時、不安に思っていた症状が何だったのか判明したときなど様々でした。そんな言葉をかけていただいたとき、1年ほど前までは分からなかった歯科医師という仕事のやりがいを実感しました。

文章が稚拙で伝わりにくかったと思いますが、僕は歯学について学ぶことができ良かったと思います。歯科医師が人の健康にどのようにかわり、どのようなやりがいがあるか知ることができたのは新潟大学だったからだと思います。最後になりましたが、先生方、お世話になった患者さん、ありがとうございました。

## 「知らない」は許されない

歯学科6年 内田 俊

2012年に京都大学の山中教授がiPS細胞の開発でノーベル医学・生理学賞を受賞して以来、この6年間で4名もの偉大なる日本の研究者達が同賞を受賞しました。そんな医学の著しい発展とともに、私たち49期の学生生活の時間は過ぎ去ってしまいました。今改めて6年間で振り返って見ると、本当にあっという間の6年間だったと思います。バスケット部のオールデンタルで決勝トーナメントに進出したこと、臨床実習で患者さんを診させて頂いたこと、クラス旅行でどんちゃん騒ぎをしたこと、ふと思い返すと数えきれない様々な情景が昨日のここのように思い浮かびます。

私はこの6年間でモノの見方・考え方がガラリと変わりました。これまでは一つの答えを一つの道筋で考えようとしていましたが、大学での講義や実習を通して、一つの疾患に対して、その治療のアプローチは一つとは限らず、そもそも治療を行うこと自体が正解ではないという答えもあることを知りました。ある真実に対して見方を変えてみるとまた違って見えてくることがあります。だからこそ脳みそがたくさんあればその分違った意見も生まれてくるし、自分の考え方に色付けがさ

れていきます。学年が進み学習の専門性が増すにつれ、また様々な人の意見を聞くにつれ、以上に述べたような歯学・医学の枠にとらわれない幅広いものの見方を得ることができました。

毎年毎年世に送り出される約2000人の歯科医師、つまり今現在の私達の中には、心の底から患者さんの心に寄り添い、歯科医師という職業への社会的責任を自覚し、リタイアするまでひたむきに勉学に励む覚悟がある者がどのくらいの数いるのでしょうか。これから先「知らない」は許されません。知識の理由を一つ一つ自分のモノとし、誰よりも努力し、一人前の歯科医師として「歯が痛い」という謎の解明に日々全力を注ぎます。これまで支えてくださった両親、先生方、友達、部活動の仲間、関わって頂いた全ての方に感謝しております。ありがとうございました。



## 卒業にあたり

### 歯学科6年 小松子記

今回原稿依頼をいただき、歯学部ニュースを書かせていただくこととなりました、歯学科49期の小松子記と申します。卒業にあたり、6年間の思い出を振り返りたいと思います。

長期休みには旅行好きな同期に誘ってもらい、全国各地へ旅しました。現地で購入したご当地フォルムカードを旅の記念に実家へ送ることを慣例としていました。広島県の宮島ではお便り用の木製しゃもじがあり、ポストの中のしゃもじを想像して、内緒で送ってみたりもしました。どの旅行も少々ハードスケジュールでしたが、学生のうちにしかできない面白い旅行でした。

3年生の春休みからは年に1回49期修学旅行が催され、クラスメイトと温泉や阿賀野市のサントピアワールドに遊びに行きました。クラス旅行だけでも月岡温泉、村杉温泉、咲花温泉といった県内各地の温泉を巡ることができました。

学生生活を振り返ってみると、それはそれは周りの人に恵まれた素敵な6年間でした。4人の幹事や毎年修学旅行を企画してくれた子を始め、49期のみんなに感謝の気持ちを伝えるにはこの場ではとても書ききれません。6年という期間を日々楽しく過ごしてこられたのも同期に恵まれたおかげです。49期での6年間は色濃く、ずっと続いてほしい、なんて思ってしまうくらい楽しいものでした。4月から離ればなれになってしまうのが少し寂しいですが、それでも次会う時には、きっとみんな優しくてカッコイイ歯科医師になっ

ているのだと思うと、そんな姿が楽しみでもあります。

末筆ではありますが、これまでお世話になった先生方、病院スタッフの皆様、いつも笑顔で長時間の診療を受けてくださった担当患者さん、そしてここまで育て支え続けてくれた家族には感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

まだまだ父と姉の背中を追いかけ始めたばかりの駆け出しではありますが、これからの歯科医師人生、追いつけ追い越せ精神で私なりに頑張っていきたいと思います。



## 卒業にあたり

歯学科6年 窪田雄也

入学した当初、一年生の私から見た6年生は大人で、かっこよく見えました。自分がいざその学年になり、卒業と考えると、自分はまだまだ、子どもだと実感します。

短いようで長い6年間でしたが、そんな6年間の中で印象深い事を書こうと思います。

1つは1年生の時に始めた飲食店でのアルバイトです。ここで学んだ事は、どんなに理不尽と考えることでも、感情的になった方が損をするということでした。

それ以来、人に何かを伝えたい時は、どうやったら怒らずに気持ちを伝えられるかを考える様になった気がします。

もう1つは部活動です。中学、高校生時代は陸上部だったのですが、新しい事を始めてみようと思い、硬式テニス部に入部しました。初心者から始めると練習でも試合でも、経験するのは悔しい思いばかりです。それでも部活を続けていけたのは、周りの先輩や同期、後輩の存在が大きかったのだと思います。

また、主務や部長を経験させてもらったのですが、ここでもたくさんの事を学びました。

その中でも大きいのは、個人の頑張りでは限界があるという事です。特に、部長を任せて貰った1年間は、同期、先輩に支えてもらって、乗り越えられた気がします。

最後に、この学生生活の中では、やはり臨床実習が印象深いです。この1年間は、もちろん個人の努力も大切ですが、それ以上に集団で情報を共有する事の重要性を実感する1年間でした。実習の終盤では3人の患者さんに、「ずっと窪田さんに診てもらいたい」と言って頂きました。毎年どの学生にも仰ってくれている事なのかもしれませんが、私にとっては1年間が報われた気がして、とても嬉しかったです。

患者さんにそう言って頂けたのも、周りの同期、親切に引継をして下さった先輩方、指導して下さった先生方の存在ありきの事です。

助けて貰ってばかりの6年間でしたが、同時に努力をし続けた濃い6年間でした。

この濃い6年間を過ごせた事を感謝して、これから先も努力し続けます。

これまで関わった全ての人に感謝致します。本当に、ありがとうございました。



## 卒業生のことば

口腔生命福祉学科4年 勅使川原 芽依

私にとって長いようで短い2年間でした。中でも4年次は、終わってしまった今では、あっという間だったように感じます。歯科臨床実習や特論、福祉実習、就活など多くのことに追われながらも充実した毎日を過ごすことができました。

2年間の中で多くを占めたのが、歯科臨床実習です。歯科衛生士の臨床実習は、初めてではなかったものの今までと違う実習環境や自分の知識、技量に落胆することが多くありました。多々ご迷惑をおかけしたと思います。しかし、診療科の先生方や歯科衛生士、看護師の皆様優しく丁寧にご教授いただいたおかげで無事に終えることができました。心から感謝しています。大変お世話になりました。ありがとうございます。歯科臨床実習を通して、歯科衛生士の魅力を再度感じることができ、これからも歯科衛生士として成長していきたいと決意を新たにすることができました。

また福祉実習では、歯科臨床実習に比べると1カ月間という短い期間でしたが、指導していただ

いた職員の方やふれあった利用者様から多くのことを学ばせていただきました。言語だけでなく、非言語的なコミュニケーションや相手の立場に立った思いやりのある対応は、今後歯科衛生士として働く上でも大変貴重な経験ができたと思います。

楽しい事だけではなく2年間もここまで乗り越えてこられたのは、ご指導いただいた先生方や編入にもかかわらず初期の段階から暖かく迎えてくれた現役生、同じように編入したみんなが、一緒に頑張りながら、励まし合いながら支え合っただけからだと思います。皆様には2年間大変お世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。





## 卒業の言葉

口腔生命福祉学科4年 喜本 理紗子

口腔生命福祉学科に入学してからあっという間に4年が経ち、卒業を迎えようとしています。入学してすぐ、「この学科は学年が上がるにつれて忙しくなる」という話を耳にしました。大学生活を振り返ると、本当にその通りだなと感じます。特に4年次からは、臨床実習や福祉実習が始まり、並行して講義や特論に取り組みながらの就職活動や国試対策という、目まぐるしい1年でした。その中でも、臨床実習や福祉実習が印象に残りました。

臨床実習では、実際に診療の補助やPMTC等をやらせていただき、毎日多くのことを学びました。実習では、思うように動けず、自分の未熟さを感じ、悔しい思いをすることも多々ありました。しかし、実習を通して様々なことを経験していくうちに、できることが徐々に増え、自信につながりました。また、患者さんから「ありがとう」という言葉をいただいた時には、やりがいを感じました。

福祉実習では、私は児童相談所に行かせていただきました。実際に子どもたちと関わったり、業務の見学をさせていただきました。子どもたちとの関わり方で悩むこともありましたが、職員の方からアドバイスをいただいたことで、子どもたち

との距離も縮まり、嬉しく感じたことを今でも覚えていています。この実習を通し、机上では学べないような経験をしたり、それぞれの方に合った支援の方法などについて学ぶことができました。

また、私は歯学部のバスケット部に所属し、マネージャーとして活動しました。私は、高校までは別のスポーツをしており、バスケットについての知識もなく、入部当初は少し不安もありました。しかし、バスケット部に入部したことで、先輩、同期、後輩に恵まれ、学業以外においても楽しく充実した時間を過ごすことができました。

最後になりますが、お世話になった先生方、そして4年間を共に過ごしてきた口腔生命福祉学科のみなさんには本当に感謝しています。これから社会に出ていくにあたり、大学生活で得た学びや様々な活動を通して経験したことを活かして、頑張っていきたいと思います。

